

学都屋台食談

第5回

金沢で過ごす学生生活の意義や仕事観・人生観を、石川県に拠点を構える企業経営者や大学学長らが講師となり、講師の経験をもとに学生と語る「学都屋台食談」が11月10日から12月2日にかけて、金沢市の片町中央味食街で開催されました。2006年から今年で12年目を迎え、講師と県内の大学に通う学生が和やかに繰り広げた食談で、講師が学生に熱く語られたメッセージを紹介します。第5回は浅田久太・株式会社浅田屋代表取締役社長。

株式会社 浅田屋

就職前に自分探し 人生変えたセミナーでの一言

私は老舗料亭旅館の長男として生まれました。15歳で上京して慶應義塾高校に進学、1年間のカナダ留学も経験しました。その後、慶應義塾大学に進学してすぐに深刻な病気になる、2年間の入院生活を余儀なくされました。人生初めての挫折です。一度は復学したのですが、友達もできず、授業も苦痛になり、中退しました。

中学校卒業と同時に東京に行かせてもらったのは、父から「跡を継がなくていい。その代わり誰にも負けないものを見つけておいで」と言われたからです。しかし、大学を辞め、いざ働くとなると、何も打ち込めるものがないことに気付かされました。そこから、自分は何をしているのが楽しいのか、どんな仕事に向いているのか、日々、自分探しをするようになりました。

自分探しの一環としていろいろなセミナーに足を運びました。そのひとつで聞いた次の言葉が私の人生を変えました。

「飲食業は人を幸せにする仕事。だからこそ、自分自身が幸せな人でなければできない」。それまでは飲食業に就くつもりはありませんでした。しかし、この言葉を聞いて、飲食業は選ばれた人しかできない仕事なのだと、考え方がガラリと変わったのです。

売り手市場の今 就活に妥協は不要

翌週にはそのセミナーで講師役を務めていた経営コンサルタントのもとへ押しかけ、「最低賃金でいいので働かせてほしい」と直談判し、入社しました。そして飲食店の立ち上げなどを経験させてもらった後、28歳で金沢に戻り、浅田屋に入ったのです。

学生の皆さんも、当時の私と同じようにこれからどんな仕事に就こうか、悩んでいる時期ではないでしょうか。じっくりと自分探しをして後悔のない仕事選びをしてほしいと思います。

多くの企業で人手不足が深刻化している今は売り手市場です。だからこそ、自分がや



参加者

前列左から、千葉順子さん(金沢大学4年)、小山佳那恵さん(金沢星稜大学3年)、後列左から、東夏成さん(金沢大学6年)、坂上秀人さん(金沢工業大学3年)、橋爪賢司さん(石川県立大学3年)

企画/榊都市環境マネジメント研究所

好きと思えることを仕事に

「アルバイトで職場のリサーチを」
今日の参加学生の中には将来ゲストハウスを経営したいという人がいました。であれば、ゲストハウスの清掃のアルバイトなどを経験すれば、経営の実際を体感することができるでしょう。おぼろげにでも将来の進路を決めたならば、リサーチを兼ねて、アルバイトしてみるといいでしょう。

アルバイトでさまざまな仕事を体験できるといえるのは学生の特権です。私も学生時代はたくさんアルバイトをしました。お試しで就職するのは難しいですが、学生ならばアルバイトという名目で職場に入ることが可能です。その会社の飾らない素顔を見ることができ

ます。
アルバイトだけでなく、例えば海外旅行や恋愛など、働き始めるとできないことはたくさんあります。ですから、学生時代は小さくまとまらず、やりたいことを思い切りやってほしいと思います。



講師

株式会社浅田屋
代表取締役社長

浅田 久太氏

あさだ・きゆうた

1968年石川県金沢市生まれ。慶應義塾大学を経て、東京の外食コンサルティング会社に勤務し、28歳で帰郷。「松魚亭」「六角堂」店长、金沢国際ホテル総支配人を経て、2012年5月より現職。